

PRAEVIDENTIA DAILY (5月28日)

昨日までの世界：英住宅指標と南ア GDP が予想以上に悪化

昨日は、米経済指標の予想比上振れもあって対主要通貨でドルが総じて強含みだったほか、南アランド、トルコリラ、ブラジルリアル、ロシアルーブルなど主要な新興国通貨の下落が大きかった。

ドル/円は、欧州時間入りの際に一時的に下落し 101.73 円へ軟化する局面があったがすぐに戻し、その後 NY 時間入り後に発表された米耐久財受注（総合が前月比+0.8%、除く輸送用機器が+0.1%、前月分が上方修正）、S&P ケースシラー住宅価格（前年比+12.4%）といずれも市場予想を上回ったことから、102.14 円へ上昇した。もっとも、その後は米長期債利回りが低下したことから上値が抑制され、再び 102 円丁度近辺へ反落し、結果的に前日終値比ではほぼ横ばいの動きに収まった。なお、米耐久財受注では設備投資の先行指標とされるコア資本財受注、GDP 統計に用いられるコア資本財出荷は各々前月比-1.2%、-0.4%と市場予想を下回っている（前月分の上方修正の影響もある）。

ポンドは、英住宅ローン承認件数が 4.2173 万件と前月および市場予想を大きく下回り、2 カ月連続の減少となったことから下落、米経済指標の予想比上振れを受けたドル強含みもあって、ポンド/ドルが 1.68 ドル台半ばから一時 1.6783 ドルへ下落した。

南アランドは、南ア 1Q GDP が前期比-0.6%と市場予想を下回ったことから続落した。トルコリラも下落した。トルコでは先週、中銀による予想外の利下げにも拘らず上昇していたが、格付け機関フィッチが利下げが中銀の信頼性低下に繋がるリスクを指摘、それにも拘らず昨日は Erdogan 首相が中銀に更なる利下げを求める発言をするなど、利下げによる成長支援のメリットよりも、中銀への政治的圧力が嫌気され始めた可能性がある。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	+0.0	-0.00	+0.00	+0.00	-0.02	-0.02	+0.00	+0.6	+0.2	-0.2	-0.2
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.1	-0.00	-0.00	+0.00	-0.01	-0.03	-0.02	+0.2	+0.6	-0.2	+0.04
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.2	-0.01	-0.01	+0.00	+0.04	+0.02	-0.02	+0.4	+0.6		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.2	+0.02	+0.02	+0.00	+0.02	+0.00	-0.02	+0.6	-0.3	-0.5	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+0.2	+0.00	+0.00	+0.00	+0.01	-0.01	-0.02	+0.6	-0.3	-0.5	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.0	+0.01	+0.00	-0.01	+0.00	-0.02	-0.02	+0.6	-0.2	-0.5	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：6月の雨音

きょうの注目通貨：USD/JPY→

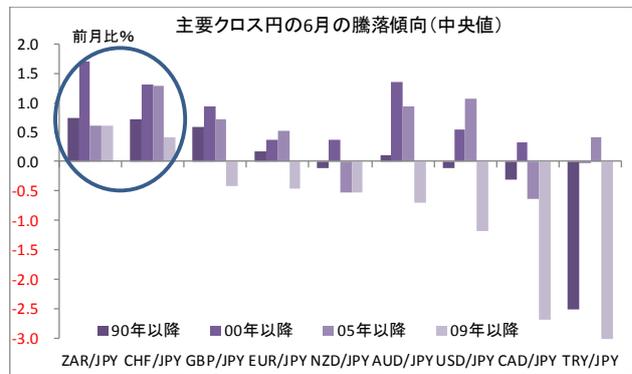
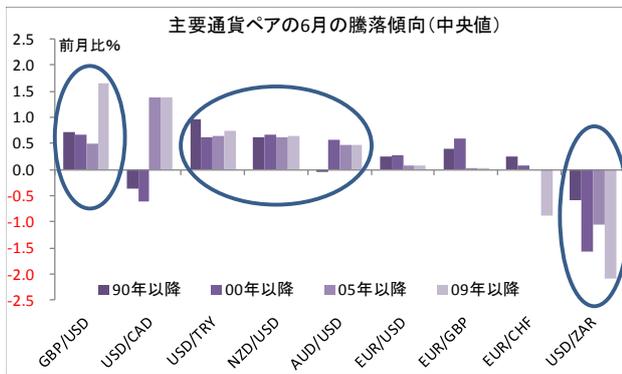
きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
黒田日銀総裁発言	9:00			
Lockhart アトランタ連銀総裁発言	9:10			ややハト派、投票権なし
Mersch・ECB 理事発言	14:00			
スイス 1Q GDP・前期比	14:45	+0.2%	+0.6%	
ドイツ 5月失業者数	16:55	-2.5万人	-1.5万人	
同・失業率		6.7%	6.7%	
ユーロ圏 5月景況感指数	18:00	102.0	102.2	
Constancio・ECB 副総裁記者会見	22:00			金融安定報告の発表

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日も相場材料が少ない中、ドル/円は2月以降の102円を中心としたレンジ推移が続くそう。他方、南アランドやトルコリラなど新興国通貨が下落し始めており、2月以降の買戻し相場が終わり低成長、高インフレ、経常赤字などが改めて意識され下落トレンドに戻ったのかも注目される。

来月6月の動きについて過去の主要通貨の変動パターンをみると、一般的に強いパターンがないが、中ではポンド、NZドル、豪ドルの対米ドルでの強含み傾向と、南アランドの対ドル、対円での上昇傾向が窺われ、ドル/円は明確なパターンがない状況が続くそう(下図を参照)。

6月の材料としては政府の成長戦略・GPIFの運用方針などの発表があり、期待感から発表前は円安に振れそうだが、市場を驚かすような内容とはなりにくく、どちらかという発表後の反落リスクに警戒が必要だ。ポンドについては金融政策面では据え置きが続くとみられる一方、6月17日に開催予定のBoEの金融安定政策委員会(FPC)で、住宅市場の過熱に対して追加的な金融規制措置(マクロブレンデンス政策、銀行に対する住宅向け融資基準の更なる強化を勧告、など)が発表される可能性が高い。この場合、金融引き締めの一環で利上げが近いと市場が捉えるとポンド支持要因となる。ニュージーランドでは12日にRBNZの金融政策決定が予定されているが、2回の連続利上げの後、今回の追加利上げは微妙な情勢だ。どちらかという、利上げ見送りでNZドル反落リスクが大きいとみられ、過去の季節的パターンとは異なる動きとなるかもしれない。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
 当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者(投資助言・代理業) 関東財務局長(金商)第2733号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641